

臨床細胞病理学演習

《担当者名》 丸川活司 近藤 啓

【概要】

病理診断学、細胞診断学とは疾患の本態を主として形態学的な立場から探求する学問であり、基礎医学（解剖学・生理学・生化学など）と、臨床医学（疾患の診断・治療を探求する）をつなぐ位置を占めている。これまで習得してきた解剖学、臨床病理検査学、臨床細胞診断学、臨床細胞病理学実習の知識を基に、人体病理学、外科病理診断学、細胞診断学、分子病理診断学について総合的に理解することを目的とする。

【学修目標】

- 1) 各種病理組織学的検査を習得するために、その内容と意義について理解する。
- 2) 固定法、脱灰法、薄切法、各種染色法など病理組織標本作製の基本的手技について説明できる。
- 3) 電子顕微鏡標本作製の原理、手順および結果の解釈について説明できる。
- 4) 病理解剖の意義と実際について説明できる。
- 5) 病理標本を用いた分子病理学的検査について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・講義概要 ・病理学的検査の意義と概要 	丸川活司
2	固定法・脱灰法 組織片の切り出し	<ul style="list-style-type: none"> ・各種固定法 ・各種脱灰法 ・切り出しの概要と実際 教科書：P202-216	丸川活司
3	包埋法 薄切法 凍結切片標本作製法	<ul style="list-style-type: none"> ・パラフィン包埋等の包埋法 ・薄切法 ・凍結切片標本作製法 教科書：P216-236	丸川活司
4	染色法総論	<ul style="list-style-type: none"> ・染色法概論 ・染色前と染色後の操作（脱水・透徹・封入） 教科書：P237-246	丸川活司
5	基本染色	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘマトキシリン・エオジン染色 教科書：P247-251	丸川活司
6	結合組織の染色法	<ul style="list-style-type: none"> ・膠原線維の染色法 ・弾性線維の染色法 ・細網線維の染色法 教科書：P252-261	近藤 啓
7	多糖類の染色法	<ul style="list-style-type: none"> ・PAS反応 ・Alcian blue染色 ・Mucicarmine染色 ・Toluidin blue染色 教科書：P262-268	近藤 啓
8	腎糸球体基底膜の染色法	<ul style="list-style-type: none"> ・PAM染色 ・PAS反応 ・Masson trichrome染色 ・Azan染色 教科書：P269-271	近藤 啓

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
9	脂質の染色法 核酸の染色法 アミロイドの染色法	・ Sudan 染色 ・ oil red O染色 ・ Feulgen反応 ・ Congo red染色 教科書：P271-279	近藤 啓
10	線維素の染色法 無機物質の染色法 生体内色素の染色法 内分泌細胞の染色法	・ PTAH染色 ・ 鉄やカルシウムの検出法 ・ メラニン色素の証明方法 ・ Grimelius染色 教科書：P280-288	近藤 啓
11	組織内病原体の染色法 神経組織の染色法	・ 細菌、真菌の検出法 ・ 神経原線維染色 ・ 髄鞘染色 教科書：P288-304	近藤 啓
12	組織化学染色	・ 酵素化学染色 ・ 免疫組織化学染色 ・ 分子病理学的検査法 教科書：P305-322	丸川活司
13	電子顕微鏡標本作製法	・ 透過型電子顕微鏡標本作製法 ・ 走査型電子顕微鏡標本作製法 教科書：P324-329	丸川活司
14	病理解剖	・ 死体解剖法について ・ 病理解剖の役割と手順 ・ 病理解剖の実際 教科書：P330-333	丸川活司
15	細胞診	・ 細胞診標本作製法 ・ 細胞診像 教科書：P339-386	丸川活司

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（筆記試験）：100%

【教科書】

松原 修 他 編集「臨床検査学講座 病理学/病理検査学 第1版」 医歯薬出版 2017年

【参考書】

水口國雄 他 編集「Medical Technology別冊 染色法のすべて」 医歯薬出版 2011年

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 監修「JAMT技術教本シリーズ 病理検査技術教本」 丸善出版 2017年

【備考】

クリッカーを使用し、学生の理解度を把握する。

Google Formを利用して学修課題を提示する。

【学修の準備】

教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。（80分）

講義で学習した部分について理解しておくこと。（80分）

【ディプロマポリシーとの関連性】

(2026年度・医療技術学部)

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

(DP4) 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に興味を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

【実務経験】

丸川活司 (臨床検査技師)、近藤 啓 (臨床検査技師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、高度に専門化し複雑化した医療の分野にあたり、専門職業人としての理念と方法、その具体的な実践に関して講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している